

文献紹介

利用教育

図書館利用教育・情報リテラシー教育をめぐる
動向：1999～2001

安藤友張

情報の科学と技術. 2002 ; 52 (5) : 289-295.

過去3年間における情報リテラシー教育に関する文献のレビュー。大学図書館、公共図書館、学校図書館と館種別に分け、それぞれの資料を取り上げて解説しながら、最近の研究および実践の動向について述べている。

看護研究への船出1 研究テーマの決定と問題の明確化

富重佐智子, 富重健一

臨床看護. 2002 ; 28 (8) : 1263-1271.

看護研究のために、初めて図書室に来るという学生もいると思う。「研究をどのようにすすめていいかわからない」という学生から相談を受けることもあるだろう。連載の第1回目は研究テーマを見つけるための4つの方法が述べられている。看護研究を手助けする立場としても活用できる連載記事になるだろう。

ナースのパソコン奮闘記① 私でもパソコン使えるかしら?

東山慶範

医療経営最前線 看護部マネジメント編. 2002 ; 144 : 66-73.

誌名変更(旧: 婦長主任新事情)を機に始まった新連載の第1回。初めてパソコンを使う初心者向けの内容で、まずは購入のためのノウハウが紹介されている。素朴な疑問にわかりやすい言葉で答えており明快。

生物医学雑誌への統一投稿規程①② (2001年10月改訂版)

医学雑誌編集者国際委員会

(野村英樹, 津谷喜一郎, 福井次矢他訳)

① 医学のあゆみ. 2002 ; 201 (10) : 790-798.

② 医学のあゆみ. 2002 ; 201 (11) : 862-867.

1978年、欧米の総合医学雑誌編集者が投稿論文スタイルの統一化を目指してカナダのバンクーバーに集った初会合以来、「バンクーバーグループ」あるいは「バンクーバースタイル」の名はご存知のとおりである。それが拡大発展して医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)となり、“Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals”(原題)は今日、世界の生物医学雑誌の論文発表に大きな影響を与えている。

今回の改訂では、単に論文発表スタイルの統一化にとどまらず、二重投稿への警告、オーサーシップ、患者プライバシーへの配慮などにも触れている。その、2001年度厚生労働科学研究班「EBMを志向した『診療ガイドライン』と、医学データベースに利用される『構造化抄録』作成の方法論の開発とそれらの受容性に関する研究」(主任研究者: 中山健夫京大助教授)による日本語訳。論文の投稿者だけでなく、生物医学系図書館員にも見逃せない基本資料となるであろう。

医療情報

患者さんはどのような情報が必要か(ベッドサイドの服薬説明-薬剤管理指導業務上の向上を目指して-)

辻本好子

薬局. 2002 ; 53 (7) : 117-122.

患者への情報提供が当たり前になってきた現在、ここでは薬剤師の在り方が問われている。薬を服用するためには、その薬に対する知識が必要となる。薬剤師は自分の知識だけを患者に

文献紹介

押し付けてはいないだろうか。患者の立場に立ち、コミュニケーションを図ることが課題であると述べている。

これは役に立つ！医療サイトランキング（理想の医療は「患者力」から生まれる！）

三谷博明

ホスピタウン. 2002 ; 10 (7) : 22-23.

インターネット上にある大量の医療情報から、質の良い情報を選び出すことはかなり困難な作業だが、第三者による評価が機能していけば、一般の人でもより良い情報を得ることは可能になってくるだろう。ここでは日本インターネット医療協議会の事務局長が10サイトを紹介している。

EBM

コクラン共同計画とThe Cochrane Library

田部井香織

医学図書館. 2002 ; 49 (3) : 136-148.

臨床医にとって有用な情報源として注目されている The Cochrane Library の、成り立ちから、内容、検索方法まで詳しく解説してある。病院図書室でも導入する所が増えているが、図書館員の基礎知識としても大変参考になる。

サービス面から検討分析したコクランライブラリの特徴

医学図書館. 2002 ; 49 (3) : 149-156.

諏訪部直子

The Cochrane Library に収載されているシステマティックレビューの分野や結果を分析し、同データベースの特徴をまとめてある。レビュー全体の8割がRCT不足のため完全な答が出ていない、などの興味深い結果も出ている。図書館員としてはこれらの特徴を理解した上

で、利用者への確かなアドバイスをしたい。

エビデンスの生成—controlled clinical trial へのIT応用

木内貴弘

EBMジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 442-446.

日本における UMIN (大学病院医療情報ネットワーク) による臨床・疫学研究のユニークな運用体制を紹介し、今後はIT活用と並行して、統計、データ管理、情報などの専門家の育成や組織・体制作りが必要だと提言。

文献データベースの構築と配信—「医学中央雑誌」のあゆみに沿って

松田真美

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 448-453.

「医学中央雑誌」が「雑誌」から「データベース」へと変貌を遂げた過程をたどりながら、文献の電子化や WWW 上での医学文献情報の流通などの「IT」化を概観し、「医学中央雑誌」は国内における医学文献情報探索のナビゲーターをめざす、と述べている。

医学における二次情報の進化—情報の質とアクセス性と使いやすさを向上させるために

津谷喜一郎, 金子善博

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 454-460.

二次情報とは、一次情報である研究論文を評価、加工し、filtering した情報のことである。最近よく耳にするシステマティックレビューとは何か？ エビデンスを「つくる」「つかう」「つたえる」ことを前提とした医学情報について解説。

EBMにおける電子カルテの果たす役割
坂本憲広

EBMジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 461-466.

文献紹介

EBM における電子カルテの役割について、「先進的 IT 技術を活用した地域医療ネットワーク公募事業」や「医療情報システム高度化モデル事業」等のプロジェクトの実例を交えて解説。

診療ガイドラインのインターネットによる提供－「健康情報センター」の設立に向けて
葛西龍樹

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 468-472.

厚生労働省は、国内の診療ガイドラインをインターネット上で提供する大規模なデータベースを構築し、「健康情報センター」の設立を検討しているが、単なる診療ガイドラインの提供を越えた役割を備えてほしいとの提言と期待を述べている。

診療情報に即応したガイドラインの提示－欧米での状況

田中博

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 476-483.

欧米では、電子診療ガイドラインを電子カルテに連動させて意志決定を行う診療支援システムがあると紹介。日本でもそういう環境が必要だと提言。

病院情報システムにおける診療ガイドラインの活用

平井愛山

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 488-494.

電子カルテと連動した、診療ガイドラインの活用システム構築の試みについて紹介し、医療のIT化を進めるには、質の高いユーザーフレンドリーな電子版診療ガイドラインの作成と、高速情報ネットワークの構築が不可欠であると述べている。

わが国の IT 政策の中の EBM

遠藤弘良

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 496-501.

政府が取り組んでいる医療制度改革の中でも、IT 化と EBM の普及は重要施策となっていると述べ、厚生労働省としての医療情報システムの具体的な将来構想を提示。

看護現場から考える EBN－クリニカルパスの電子化による看護の標準化

坂本すが

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 502-506.

日本ではまだ EBN についての定義が明確ではないが、看護ケアの結果（アウトカム）を重視したエビデンスの確立が望まれる。電子カルテシステム導入に際して看護の標準化を実施することで、看護エビデンスの抽出をめざしているとのこと。

保健医療行政が EBM に対して果たすべき役割
野口晴子

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (4) : 507-513.

保健医療行政が EBM に対して担う最も大きな役割は、医療情報の標準化を促す社会的コンセンサスを得ることと、個人情報保護と医療情報の活用に関するルールを明確にすることであると提言。

■文献の入手は、所蔵館へお申し込みください。

■「情報の科学と技術」・「Journal of the Medical Library Association」は協会で購読しています。

■興味ある文献を分かちあいましょう。参考になる文献がございましたら、会誌編集部までお知らせください。